

—関連施設だより—

医療過疎地域で

高崎 秀明

社会福祉法人恩賜財団済生会神栖済生会病院

Hideaki Takasaki

Social Welfare Organization Saiseikai Imperial Gift Foundation Inc.

Kamisu Saiseikai Hospital

神栖済生会病院は、2005年3月に利根川河口の茨城県側である旧波崎町（現・神栖市波崎）にあった波崎済生病院から新築、移転して開院しました。療養病床39床を含む179床の許可病床ですが、医師、看護師不足により、現在は7対1の急性期病床93床で運営しています。1994年から日本医科大学の特定関連病院に指定され、現在、内科、外科、泌尿器科、形成外科で同窓生が常勤医として勤務し、また多くの診療科で日本医科大学からの非常勤医師により外来診療を支えていただいています。

1911年（明治44年）、明治天皇が「生活苦で医療を受けることができずに困っている人たちを施薬救療（無償で治療すること）によって救おう」と「済生勅語」を発し、お手元金150万円を下賜され、恩賜財団済生会が創立されました。現在、全国95の病院・診療所と、300余りの福祉施設などを運営し、54,000人が働く、日本最大の社会福祉法人です。2011年に100周年を迎え、天皇皇后両陛下ご臨席のもと、記念式典を挙行了しました。第6代総裁に秋篠宮殿下を推戴しています。神栖済生会病院はその中の小さな病院の一つです。社会福祉法人として、経済的困窮者に対する無料低額診療、社会的弱者に対する支援事業は組織存立の基盤として実行されています。

茨城県南部の鹿行（ろっこう）二次医療圏は、神栖市、鹿嶋市、潮来市、銚田市、行方市の5市で構成されています。2012年の人口10万人あたりの医師数は全国平均237.8人に対し、茨城県は175.7人と全国ワースト2位、その中で鹿行医療圏は88.6人と茨城県内で最下位、全国平均の37%しかいません。全国に344ある二次医療圏の中でもワースト3に入ります。近隣では、利根川対岸にあった銚子市立病院の閉院や、鹿島労災病院の医師引き揚げな



社会福祉法人恩賜財団済生会 神栖済生会病院



茨城県鹿島港全景

ど医師不足から様々な問題が起こり、救急医療も大きな問題となっています。神栖済生会病院も医師確保に苦勞しています。神栖市には鉄道はありませんが、東関東自動車道を経由で東京駅からバスで1時間半と比較的近い場所にあります。それでもなかなか常勤医を確保することができません。神栖市としても、寄付講座の創設などによって医師確保を目指していますが成果は限られています。現在は限られた医療資源の集約化、効率化を目指して茨城県、神栖市、近隣病院と検討しています。神栖市の医療を守るために、日本医科大学に是非ともご協力をお願いいたします。

(受付：2014年7月10日)